

## 油彩

(テンペラ併用)

洋梨を描く②

## 三浦明範の静物画講座

みづらあきのり 1953秋田 東京学芸大学卒 文化庁主催現代美術展、セントラル美術館  
油絵大賞展、昭和会展、安井賞展、具象絵画「ヒューナール」、日本の絵画新世代展、両洋の眼現  
代の絵画展、21世紀の旗手展などに出品 文化庁芸術家在外研修員としてベルギーに滞在(96  
〜97) 春陽会会員

前号では、混合技法について簡単に説明しました。今号ではさらに、性質と使い方について詳しくみていきます。

## ■テンペラと油彩の違い

テンペラは水で溶いて描きますから、水分が蒸発した時点で乾きます。つまり、乾燥速度がたいへん速いので、ぼかしが不得手なのです。また、その体積の大半が水分ですから、乾燥後は量が減り、フラットになります。そして、絵具に占める顔料の割合は非常に大きいので、不透明になります。逆に、油彩は乾燥が遅い分、ぼかしや色彩の移行が簡単にできません。また、油・樹脂成分は無くなりませんが、盛り上がりは残り、透明になってしまいます。

これらの長所のみを取り入れて表現しようというのが、混合技法なのです。



前号では墨による下描き、ライト・レッドの下塗りののち、テンペラ白による白色浮き出しまで進みました。

具体的には、まず、テンペラ白で明暗の調子を作ります。乾燥が速いので、漸減調子はハッチングという、線描の粗密による「雨降り描き」になります。

この上から、油絵具にメデイウムを加えた油彩で薄く固有色を塗ります。(半)透明に塗りますので、下のテンペラ白が染まるように着色されます。有色地に描いた場合は、この時点で、大まかな立体感と色彩は完成してしまいます。さらに、明部にはテンペラ白、暗部には油彩を重ねていくことで、より強調されていくこととなります。

## ■テンペラの作り方

テンペラ・メデイウム(原液)を等量の水で希釈し、ほぼ等量の顔料を加えて、ステンレス・ナイフ等で混ぜます。一般には、顔料を水で練ってから、メデイウムと

混ぜるのですが、今回使用したチタニウム・ホワイトは、大変親水性が高いので、粉末のままでも簡単に混ぜることができます。できた絵具は、いわゆる水彩と同じように、水で調節します。

## ■油彩について

使用する油絵具は、市販されているものでよいのですが、その成分に不足しているものをメデイウムで補います。したがって、メデイウムは必ず加えて使用しますが、水彩絵具の「水」のように、希釈するためのものではありません。決して入れ過ぎないように注意します。目安としては、柔らかな筆で塗れて、流れない程度です。

## ■制作過程

前号は有色下地の上に、テンペラ白で浮き出しをするところまででした。今号では、一気に完成し

てみましょう。

### 1 寒色のグラッシー

ライト・レッドの下地の赤味が強いので、中和させるために、油絵具のビリジアンを全面に塗布します。これによって、テンペラを乗せなかったところは、補色混色により、かなり暗い調子になります。

### 2 テンペラ白の浮き出し

さらに明るい所と、ビリジアンの影響を消したいところにテンペラを乗せていきます。

### 3 固有色

これまでで、立体感はほぼ表現されています。この上に、薄く、半透明に油彩で固有色を重ねることで、大まかな表現は出来上がってしまいます。油絵具にはすべてメデイウムのほかに、ごく少量のシルバー・ホワイトを混ぜておきます。これは、その鉛成分が乾性油と結合して堅牢なものになり、さらに、乾燥(酸化重合)速度が速まるためです。また、テンペラの表現が、ハッチングでの漸減調子しかできないため、ソフトにすることにもなります。

### 4 テンペラ白の浮き出し、油絵具固有色の繰り返し

洋梨の明るくしたい所に、テンペラ白で浮き出しをします。布に



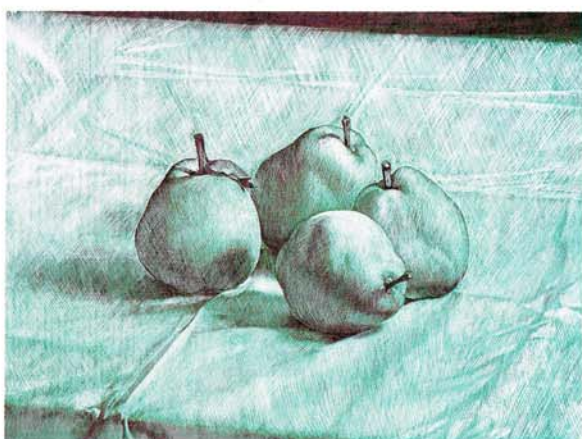
③洋梨に固有色。カドミウム・イエロー、ビリジアン、少量のシルバー。



①油彩ビリジアンによる地透層。



④洋梨にテンペラ白。布に油彩シルバー、ブラックのグレイ調子。明部にオーカー、暗部にセルリアンを加える。



②テンペラ白の白色浮き出し。

は全体に油彩を施します。少し温かみを与えるために、シルバーにオーカーを少し混ぜ、陰影の個所には、青みとしてセルリアンを加えます。さらに、洋梨に油彩ロー・シェンナ、布の明部にはテンペラ白の浮き出しを施します。

暗くしたい所や色彩を追加する所には、油絵具を塗ります。油絵具は、あたかもセロファンを重ねるように、色彩を重ねるだけの用途に使います。対して、テンペラは下の色を消すことと、調子を作ることに使います。

5 ハイライトと暗部の強調

最後に、最暗部に黒色を含むグレースーを施し、ハイライトにはテンペラ白で浮き出しをしてから、ごく薄くシルバー・ホワイトのグレースーをして完成です。

今回は、混合技法とはどんなものかを知っていただくために、材料の説明に終始してしまいました。次からは、より深い部分での制作をしていききたいと思っています。



①洋梨のハイライトをテンペラ白。  
布にオーカーを少量入れたシルバー。



⑤洋梨にロー・シェンナ、少量のシルバー。  
布にテンペラ白による浮き出し。



⑧暗部の強調。  
アイボリー、バート・シェンナ。  
布にはテンペラ白による明部の強調。



⑥洋梨の斑。バート・シェンナ、バート・アンバー、ビリジアン。



⑨完成作品。ハイライトに、ごく薄い油彩シルバー。

四つの洋梨 F 6 1998年  
パネルに和紙、白亜地、テンペラ・油彩